

進路だより 道標

上尾市立瓦葺中学校

第1号

令和6年4月11日(木)

中学校生活も最後の一年を迎え、いよいよ進路決定の時が迫ってきています。進路と聞くと、受験をイメージする人が多いと思いますが、「進路」＝「受験」ではありません。

「進路を考える」とは「自分のこれからを考える」ということです。大人になった自分はどんなことをやりたいか、どんな毎を送りたいか、どんな人生にしたいか、**自分なりの「こうありたい」を考えてみる。そうしたことを考える力がついてくるのがこの中学3年生という時期だ**ということです。

とはいえ、なかなか将来のことまでイメージが湧かない人もたくさんいると思います。「やりたいことがまだ見つからない、だから見つけるために高校へ進学する」それもまたひとつだと思います。ただし、その**高校生活をどんな風に過ごしたいか、目先の3年間の自分をイメージすることが**大切です。それが、高校卒業の頃には10年後の自分をイメージすることに、30歳を迎える頃にはその先30年後までの人生設計ができるようになることにつながっていきます。

ヨシタケシンスケさんという作家さんが、“はたらく”ことの根源に迫った「おしごとそうだんセンター」という本を出されました。そのインタビューでこうお話しされています。

「好きなものなんて、特に子どもの頃はころころ変わるのが当たり前だし、友達がいいと言ったものをまねしたり、流行りにもものったりしていく中で、自分の中でちょっとずつたまっていくものだと思うんですね。ましてや向いているものなんて、頭で考えたってわからない。体で感じるしかないことなんです。だから、『これやるくらいならこっちだな』っていう、明らかに向いていないことを経験してみないことには……子ども自身が、木から落ちてみないことにはわからない。そういう痛みを知ることはやっぱり、必要なんじゃないかと思いますね。」

『LEE 連載コラム「ヨシタケシンスケさんと考える「はたらく」ってなんでしょう？」』より抜粋

進路選択や受験勉強も同じであるように思います。何が向いているか、それを頭の中だけで考えるだけでは難しい。実際に足を運んでみて、肌で感じてみて、体験してみても分かる。はじめは「友達が良いというから」「先輩が選んでいるから」から始めてもいいかもしれません。やってみて「これはイヤだな」それを積み重ねながら「自分はこうありたい」と思える形を模索するのもひとつの方法です。

模索する力をつけることもまた、生きる力につながります。様々な経験をしてきた保護者の方や学校の先生のほか、たくさんの大人が身近にいるはずです。いろいろなヒントを得ながら、一緒に模索していきましょう。選ぶのは自分、自分が自分の人生の主人公です。

今後、この進路だより「道標」を通して、高校受験までのスケジュールや、学校説明会の日程等を発信していきます。進学以外の進路（就職等）を検討される場合には、早めに担任までご相談ください。

まず確認してもらいたいこと

1・2年次の通知表、きちんと保管できていますか？

高校進学という進路を選択する場合には、高校で開かれる個別相談会に参加することもこれから増えていきます。特に私立高校では、それまでの学力や諸活動の実績を確認するため、**1・2年次の通知表の提示を求められることがあります。**

万が一、紛失してしまい再発行が必要な場合には、「**通知表再発行願い**」を受け取り、提出する必要があります。過去の年度の通知表の発行には時間を要する場合がありますので、高校へ足を運ぶ直前ではなく、予め通知表の所在を確認の上、早めに申し出てください。

